

# 佐陀川開削に尽力「清原太兵衛」



小説募集

児童文学

マンガ

# 3冊セット 鹿島町が出版

## 郷土の偉人 もって知って 全戸に無料配布

鹿島町が、同町内の佐陀川開削に身をささげた「清原太兵衛」をテーマに懸賞募集した小説が、このほど出版された。小説に併せて「清原太兵衛」の児童文学とマンガも刊行され、三冊セットで全戸配布。町では「郷土を開拓した偉人の業績を大人から子供まで知ってもらいたい」と話している。

小説は昨年、町合併四十周年記念事業として一般から募集。昨年七月から十二月までに全国各地から九人が応募した。作品を島根女短大の藤岡大拙学長らが審査。最終選考に残った四編の中から、小説としての面白さや歴史的な資料を十分に生かした内容などから、松江市東本町の寺井敏夫さん（ペン名J.A.島根県共済農業協同組合連合会専務）の作品が選ばれた。

小説はA5判、百九十二ページ。江戸中期、清原太兵衛が水書に悩む松江城下を見て水路の開削を決意。六道

鹿島町が出版した「清原太兵衛」の小説と児童文学、マンガの3冊セット

る表現で描かれている。この小説に併せて町では、将来を担う若い世代にも先人の偉業を知ってもらおうと、マンガ（小室孝太郎作）と児童文学（村尾靖子作、高田勲挿絵）も刊行。三冊セットで町内の全世帯二千四百六十一戸と、学校や公民館などに無料配布した。